

令和7年度 全国学力学習状況調査の結果

京都市立洛南中学校

4月17日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、今年度は国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

<p>« 国語 »</p> <p>全体的に、話すこと・聞くことの正答率は高めでした。普段の話し合い活動などが生きていると考えられるので、これからも続けていきます。書くことの正答率が低めでした。自分の考えが明確に伝えられるように、論理の展開に注意して、筋道立てて書く力、表現を工夫する力をつけていく必要があります。</p>	<p>« 数学 »</p> <p>どの分野においても、正答率が低めでした。特に、計算分野が一番低く、基礎的な計算力の不足が他の分野にも影響を与えています。各学年の計算分野の学習内容を使い、図形や関数分野の学習をするため、計算の定着具合は非常に重要です。今後、基礎となる計算力を付けていけるよう、粘り強く取り組みましょう。</p>
<p>« 理科 »</p> <p>調査問題10問中4問が全国平均を上回っており、学習した内容が直接答えに結び付く設問についての正答率は高いといえます。特に生物の体のはたらきや、気体の性質を粒子で説明したりする問題は、全国平均と比べてもよくできていました。しかし、自然現象を既習の知識で考えたり、実験・観察の方法を工夫して考えたりする問題では全国平均を下回っていました。学校での学習内容を日常生活と結びつけて考えるようしましょう。</p>	<p>« 生徒質問紙から »</p> <p>全体的に、基本的な生活習慣が比較的整っています。約8割が毎日朝食を摂っています。学校生活では、友人関係に満足している生徒が多く、協力や話し合いを重視する姿勢が見られます。授業理解度は概ね良好で、特に理科では観察や実験を取り入れた学習が進められています。一方、家庭学習時間やICT機器の活用はまだ課題があります。今後も、自己肯定感や将来の夢を持つ生徒も多く、意欲的な学びを支える環境づくりを大切にしていきます。</p>

«保護者の皆様へ»

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、まだまだその習慣に課題があると考えられます。これからも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりを進めたいと思いますので、相互に協力していくことができますようよろしくお願ひいたします。